めいろうこどもえん　６月園だより

２０１６年度　年主題　〈平和をともに〉

0･1･2歳児６月主題　「感じて」

月のねがい

◎さんびかや祈りのことばに心を合わせる
◎感染症に気をつけながら健康に過ごす
◎友だちや身近な物事に興味をもつ
◎遊びや自分の思いが大切にされていることを感じる

3･4･5歳児６月主題　「関心」

月のねがい

◎神さまの創られた自然の不思議さに目を向ける
◎いろいろな物を使って遊び、興味や関心が広がる
◎友だちや保育者の言動、遊びに心を動かす
◎トラブルを通して友だちの思いを知る
保育者の援助を受けながら、共に考えてみる

今月の聖句　「平和をつくるものは幸いです」　マタイ福音書5:9

平和を願わない人はいない

私は幼少の時、日本がアメリカ･イギリス･フランス･オランダ･中国を敵に回し、戦争した時に育ちました。実に無謀な戦争でした。出征軍人はその戦場で弾薬不足･食料不足の中に無残に死んでいきました。昭和２０年ともなると、日本のいたるところで空襲を受け、多くの非戦闘員が焼死または爆死しました。また、私は長崎で原爆にも会いました。大きな火の玉が空いっぱいに広がり逃げることの限界を知りました。幸い一命をとりとめ、今日に至っております。「命をいただいた」のだと感謝しています。だから、誰よりも大きな声で「戦争はだめ」「平和を作ろう」と叫んでいます。

平和は他人に求めるのではなく、自分が作り、自分が平和を実感するもの

平和は互いに他者と協力しなければならないことは勿論ですが、これが難しい。他者が納得して同調すれば の話ですが、最終的には自分個人の決断の問題ではないでしょうか。自分がまず、平和を実践する者となる。もっと言えば、権利を主張せず、進んで損をする勇気を持つことです。自分の利益･自国の国益を優先させると、平和は絶対築けません。自分が損をする、自分が傷つく、自分が死ぬ覚悟さえ定まれば、戦争は起きないでしょう。「失う者はそれを得、得ようとする者はそれを失う」のです。「負けるが勝ち」ともいわれます。幼な子たちに、この真理を学んでもらいたいものです。神仏に帰依すれば心が平安になり、自分自身のうちにまず平和が築かれます。

前理事長　池田公榮

６月の行事予定

８日（水）	歯科検診(13:00より)
１４日（火）	６月誕生会
２５日（土）	家族の日参観
２９日（水）	プール遊び・弁当日

７月の行事予定

２日（土）	夏祭り・弁当日（2.3 号）
６日（水）	海あそび・弁当日
７日（木）	七夕事業所訪問
９・10 日	お泊まり保育（年長児）
１２日(火)	７月誕生会
１３日(水)	プール遊び・弁当日 ふれあいあそび
１９日(火)	１学期終園式(1号:午前保育)

～家族の日参観～

義援金ありがとうございました

お陰様で、34,675円の募金が集まり送金致しました。皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

～夏まつり～

～今年も土仙人現る!～

先日、嗜好調査を実施致しました。ご協力ありがとうございます。毎年、食育にはいろいろな方々から協力をいただきながら、子どもたちが少しでも食を通して、健康に興味を持てるように工夫をしています。田植えから始まり、野菜作り、米の収穫、秋には実りの秋パーティー、冬にはみかん狩り、給食バイキング。私もですが、食べることが大好きな子どもたちです。そして何より「食べること」に意欲のある子は、何をするにも元気です。遊ぶことにも探究心があり、失敗しても立ち直りが早い！1日1日の食事は大切にしたいものです。

今年も子どもたちの少し苦手な野菜を土仙人の公栄先生と一緒に育てることにしました。私は随分前にクラスを受けもっていた時、「ひょうたん」作りに挑戦しました。そのひょうたんを昔の人のように水筒代わりに水を入れて、公園に行きたい！という淡い夢をもって育ててみたのですが、その年はとても台風が多くうまく育ちませんでした。子どもたちとがっかりしたことを今でもこの季節になると思い出します。いつかまたチャレンジしたくて、ひょうたんの種は未だに職員室の冷蔵庫に眠っています。

さて、今年もできた野菜で何を作って食べようかワクワクしています。行事の時や送迎の際によかったら花壇をのぞいて見て下さいね。

森　山

～給食試食会～

～プールあそび～

～内科検診～

梅雨来たりなば真夏遠からじ

園内の草花や木々も、夏に向けて一段と緑の濃さを増してきました。いよいよ雨の多い季節を迎えます。恵みの雨も長く続くと少しうっとうしいイメージですが、子どもたちにとっては、これもまた楽しい時でもあります。晴れた日も雨の日も、園内で繰り広げられる子どもたちの営みは、神様が子どもたちの内側に注がれた生命のエネルギーで溢れています。

ご承知のとおり、北海道でとっても心配な出来事が起こっています。小学校二年生の男の子が、山中で行方不明になって今日で五日目。警察、消防、自衛隊で必至で捜索していますが、未だ手がかりがありません。唯々無事を祈るのみです。

山中に一人残されたのは、いたずらを戒めるための「しつけ」であったとか。両親を批判する声も多く聞こえる中、誰でも似たような経験があり、改めて考えさせられることでもあります。「親なんだから、ちゃんとしつけて！」という言葉に敏感になり、ストレスを感じることもあるでしょう。しつけは家庭の文化とも言えます。子どもに何を大事にしたいかを伝える大切なことです。コンビニ、スマホ、コンピュータと、一昔より大人の生活スタイルが随分変わりました。子どもに睡眠のリズム、食事の習慣、社会的なルールを身につけさせることが難しくなってきていることも事実です。親の責任と突き放すのではなく、社会全体で意識する必要があのではないでしょうか。褒めることは勿論、誤ったことに対してしっかり叱ることも大切です。子どもの気持ちに寄り添い、人格を否定せず、体罰を加えないことが必要だと思います。そして、叱った後の気持ちの切り替え、雰囲気づくりも大事。しっかりと抱きしめてあげてくださいね。

さて、子どもたちはずいぶん園生活にも慣れてきました。朝の礼拝や体操にも落ち着きが感じられます。それぞれに集団の中での自分というものにも何かを感じてきているようです。日々の経験から得る「驚き」や「気づき」が興味を広げていきます。子どもを、自分の思いを持つ一つの主体として捉えるならば、自らの意志であそびを選び、創り出し、遊び込む中で得る自信や意欲というものこそ、真に大切にしたいものです。「先生、見て！来て！」と、自分の存在を認めて欲しいと願う気持ちこそ、自律ある育ちの原動力ではないでしょうか。

湿度が上がり、疲れも出てきて体調を崩しやすい時期でもあります。また、気候的には様々な感染症に罹りやすくなります。どうぞ早寝･早起き･朝ごはんで元気に登園できますようご協力お願いいたします。

園　長

０才児が言葉を獲得するとき

赤ちゃんが声帯を使って声を出し始めるのは生後２ヶ月くらいからですが、それを聞いた大人が反応する時に発声に繋がります。「ぶー」と赤ちゃんが言うと「ぶー？」と大人が言い返します。それによってあかちゃんは自分が出した音を確認することができ、今度は声帯をコントロールして同じ音を出そうとする・・・それが発声に繋がるというのです。

幼児が獲得していく「ことば」は、様々な背景によって修得されないことも生じてきます。２才になってもなかな言葉が出てこなかったり、吃音など言葉のつまずきだったり、自分の気持ちを言葉に結びつけることができなかったり･･･。

さて、昨今の学童期の言葉の乱れは看過できません。友だちが遊びに誘っても「無理」「ありえねえ」の二言ですべて退けられ、互いに「死ね･殺す」などの言葉が飛び交うなど、子どもたちの言葉の世界に拡がりがなくなってきています。また、一才半健診での初語数が年々減ってきていると感じた健診担当者の間では、健診を待つ親子の会話（親からの話しかけ）の少ないこと、ケータイを見つめる時間の方が、子どもと目を合わせる時間よりはるかに長い親たちの姿も、子どもの育ちへの影響があるのではと訴えています。

保育の現場では、子どもたちの発語や発音が改善される保育を組み立てることが、言葉の発達のみならず、子どもたちの日常を豊かに楽しくすることに繋がっていきます。お話やことば遊びを豊かに体験するには、自然や直接体験も重要です。出来るだけ本物に触れる感動や驚きを日々の生活の中で取り入れたいものです。「楽しく遊ぶこと」が、ことば遊びを行う上で基礎となります。ことばが出来る準備となる体験や楽しさを保障する事が幼児期には大切です！喜びに繋がる体験を見つける事が保育者の役割だと感じています。

虫歯になりやすいのは…

大人よりも子供の歯

乳歯や生えたばかりの永久歯はエナメル質表面の結晶構造が脆く、歯垢（プラーク）の中で酸や毒素がそれほど作られなくても、すぐに歯の表面が溶けだしてしまいます。永久歯は生えてから時間の経過とともにしっかりした結晶構造に変化していきます。

虫歯になりやすい時期

◇生え代わりの時期

乳歯の時期（小学生までの時期）は保護者は子供の歯のケアに注意を払いますが、成長するにつれだんだん自分だけで歯みがきをしたり、自由におやつを食べたりすることが多くなっていきます。　また、生え代わりの時期は乳歯が抜けたままになっていたり、グラグラしている歯があったり、永久歯が生えてきても咬める高さにまでなるには多少の時間がかかりますので、歯ブラシがうまく当たりません。歯垢（プラーク）がどんどん蓄積することになります。奥歯の咬み合わせ・前歯の歯と歯茎の境目・歯と歯の隣り合っている面は虫歯になりやすいところです。